



著者は、「学校のシェイプアップ、教師の役割の縮小」を期待する。また、「欲ばりな学校」をやめて、学校や教員の役割や業務を絞り込み、真に大切な部分に時間とエネルギーを集中してつぎ込むこと、登下校や休みの時間の生徒指導等の仕事については、教師以外のスタッフに任

失。 ①担任がいない、優秀な人が来
②読解力の低下、少ない公的資金、受け身の生徒の増加など質が危ない。
③長時間労働、うつ病の増加など失われる命。
④理不尽な校則、画一的な指導、考えなくなるなど学びの放棄。
⑤多発する不祥事、失敗から学ばない学校などによる信頼喪失。

本書は、教師の4割は月1冊も本を読まない、毎年5千人の教師が精神疾患で休職などの危機的状況を次のように説明する。

教師崩壊 先生の数が足りない、質も危ない



妹尾昌俊 著
1056円 PHP新書
☎03-3520-9633

（前聖徳大学教授・西村美東士）
「ゆとり」を取り戻す必要がある。

「人」からしか「学びたい」とは思えないだろう。「良い授業をするため」という卑小な義務感を超えて、「学びたいから学ぶ」という学習の「本質」に沿い、自ら研鑽するような教師の「ゆとり」を取り戻す必要がある。

評者は考える。教員採用は、これまでのペーパーテスト重視から「生きる力」や「社会性」重視に移行しつつある。だが、それが「大きい声で挨拶できる」など、「本質」から外れたところに走ってしまった感もある。そんなことより「学びたい教師」についてどうにかしたい。生徒は「学んでい